

事業名：「ホッケー組織基盤強化支援事業」

団体名：公益社団法人 日本ホッケー協会

事業実施の背景・課題、目標

日本ホッケー協会(JHA)は、2020年度に中長期計画である「Japan Hockey Road to 2030」を策定した。本中長期計画では、協会としての理念・ビジョンを定義するとともに、9つの重点施策を明確化し、アクションプランとタスクを明確化している。

ここ数年間はスポーツ団体がバナンスコードに基づき、協会全体の**意思決定体制の再構築を進めることができた**。他方で、①登録競技者数の伸び悩み、②パートナーへの付加価値が示せていない、③経営人材の不足、④ノウハウの不足などが明らかとなっている。これら**組織基盤の強化に対する取り組みが重要な経営課題**となっている。

本事業では、昨年度に引き続き、**安定的かつ効率的に事業推進を行うことができる組織基盤作りに加え、テクノロジーやシステムを活用したホッケーの魅力・価値の提供、ホッケー界を担う人材育成**などに取り組むものである。



本事業における具体的な取組内容 (5つの計画)

計画No1 マネジメント人材の活用 (実施期間：令和4～6年)

- 取組内容：PM及び全体ディレクションを行う人材(1名) + デジタルに関わる取組全般のマネジメント及びディレクションを行う人材(1名)を引き続き登用し、中長期計画と本事業との連動性を確保しつつPM実施。また、全体ディレクションを行う上で方向性を決めるための全国規模の年次アンケートを実施(2月実施予定)

これらの取り組みを実施する上でのPMを担当

計画No2 経理・労務業務のIT化及びアウトソーシング化による業務効率化 (実施期間：令和4～6年)

- 取組内容：「PCAクラウド公益法人会計」の更なる活用による業務効率化。仕訳業務の外部委託による工数削減と経理実績締め迅速化。「ジョブカン」の活用。給与計算について外部専門家との連携

計画No3 ホッケー競技のデジタルツールを活用した価値の創出 (実施期間：令和4～6年)

- 取組内容：競技の多様な価値創出を行うべく大きく分けて次の3つの取り組みを実施 (1)アナリスト育成講座、(2)解説者養成講座、(3)オンライン配信(SpoLive)の拡充

計画No4 会員登録DBの構築とデジタルマーケティングの実践 (実施期間：令和4～6年)

- 取組内容：会員登録者数を増加させるため、デジタルマーケティングに関する取り組みを実施。併せてシステムの細かな不具合の調整や機能の改善を継続的に実施

計画No5 次世代リーダーズ会議の実施による次世代の人材育成 (実施期間：令和4～6年)

- 取組内容：次世代リーダーズ第一期生を中心に、本年度創立100周年を迎えたJHAの発展について、地域別や現場の現状を踏まえた意見交換とアクションの検討

令和5年度の取組内容および進捗/成果と課題

ホッケー組織基盤強化支援事業では大きく分けて5つの取り組み（計画）を実施している。それぞれの取り組みについて、取り組み内容、進捗・成果、そして課題を下記に報告する

計画1: マネジメント人材の活用

取り組み内容	進捗・成果	課題
<ul style="list-style-type: none">適切な人材を全体マネジメント及びデジタルに関するマネジメントに関して登用し、スムーズな運営・管理及び効果の最大化を図ったまた、昨年実施した全国サーベイのデータをエビデンスとしたより求められる事業内容の構築・実施が可能となった。本年度も1-3月期にて継続してサーベイを実施することで、次年度に対しても同様の成果が見込まれる	<ul style="list-style-type: none">事業計画・目的・内容に沿った事業運営・体制及びスケジュール管理が可能となり、効果の最大化を行うことができたデータをエビデンスとしたより求められる事業内容の構築・実施	<ul style="list-style-type: none">特になし

計画2: 経理・労務業務のIT化及びアウトソーシング化による業務効率化

取り組み内容	進捗・成果	課題
<ul style="list-style-type: none">R4年度に本事業の一環で導入した「PCAクラウド公益法人会計」の活用の促進また、仕訳業務の外部委託による工数削減と経理実績締め迅速化を図ったR4年度末に本事業の一環で導入した「ジョブカン」の活用給与計算について外部専門家との連携を行った	<ul style="list-style-type: none">各事業毎の財務状況の見える化が達成されるとともに、今期は第1四半期の実績報告および中間期決算報告が実施できた出退勤管理・給与計算のマニュアル作業からシステム管理への移行が進んだ給与計算について外部専門家との連携を行ったことで人的なミスやチェック工数の削減が図られた	<ul style="list-style-type: none">仕訳業務について大枠は順調に外部委託が進んでいるが、システムインターフェースの特異性や人的な区分けミス等もあり根気強い取り組みが必要経費精算業務のシステム化が進んでおり、経費の早期把握は達成できているが、FBデータ取り込みや会計システムへの仕訳連携を実現するために継続して取り組んでいく必要がある補助金を受けている事業に関しては、内部の会計処理の後に実績報告が必要となることから、上記がスムーズに進んだ後の工程での人手不足が解決していない。定められた期限までの実績報告書類の作成・関連資料や証憑の取りまとめの負担軽減が引き続き課題となっている

計画3:ホッケー競技のデジタルツールを活用した価値の創出

取り組み内容	進捗・成果	課題
<p>a. アナリスト育成講座</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度を通して毎月1回、全国からのスポーツアナリストに興味ある参加者（監督・コーチからスタッフまで）に対しテーマ別に講義を実施 3月には対面でのより実践的な講義を予定 	<ul style="list-style-type: none"> 約20名弱の参加者とオンライン講座だけでなく、Slackを活用した日常的なディスカッションが行われており、スポーツアナリスへの理解を深めると共に本格導入への意欲を高めている 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし
<p>b. 解説者育成講座</p> <ul style="list-style-type: none"> 2023年8月にNHK財団所属でスポーツ実況を30年以上担当されている栗田晴行アナウンサーを講師に一日フルでの講座を実施 講座の様子はNHK財団のWebページでも紹介された (https://steranet.jp/articles/-/2361) 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度は解説者初任者向けの講座を開設。受講者の実践の場として、本年度の高校選抜大会の準決勝・決勝戦にて解説を担当してもらい、次につながる実践の場も設定した 本年度の講座は、解説経験のある若手2名を対象としたアドバンストコースとして設定。直後に行われた日本代表の国際試合にて講師も監修のもと、実践の場を踏むことで短期間でのPDCAを回せた 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き特に若手で解説に興味のある人材発掘が課題。大学の放送部などの連携も一案と考えている
<p>c. オンライン配信（SpoLive）の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> JHA主催や共催等の大会において動画配信プラットフォーム展開を拡大（前年度2大会→今年度4大会） また、2023年8月に行われた「全国スポーツ少年団交流大会」においては、NTTグループとの協働でAIカメラでの撮影実験と組み合わせることで、多くの試合の配信を行った 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの試合配信を行ったことにより、全国のファンや保護者・ご家族から、場所を問わず競技に触れる機会を増やすことができたことと好評価を得た NTT Sportictとの間でトライアル協定を締結し、当協会保有の1台を含む複数台のAIカメラを実質2名でオペレーションし、試合映像のアーカイブ化に成功した。 	<ul style="list-style-type: none"> 配信映像のマネタイズ化が課題。次年度については大会属性に応じたスポンサーを募り、スポンサー企業のCMやロゴ掲出の機会などを模索する



ステラnet 全国に広がるホッケーのネットワーク

ホーム ランキング 大会 競技者 NHK財団 国際連盟 試合記録 SDGs 子育て 国際 イベント

あのアナウンサーが講師に!? 「ホッケー解説者養成講座」
100年のノウハウを伝えるオーガナイザーの挑戦

2023.10.03 ステラnet 編集部
メディア・リレーションズ 0100-0000

知識解と同時に関連性をスタートし、技術を磨いてきたアナウンサー。まもなく100年を迎えるその技術を、NHK財団では研修を通じて社会に還元しています。先日、スポーツ分野の経験者のための養成講座が開かれました。

みなさんよく見る（または知っている）スポーツ中継は、ほとんど、スポーツアナウンサーと解説者のペアで行われています。解説を担当するのは、多くのトッププレイヤー

関連記事

アナウンサーの「ひとり3日」研修が大人気
0100-0000

あなたは「金や稼ぐことば」を知っていますか？ 先輩に役立つ「儲けかた」とは——
0100-0000

全国スポーツ少年団ホッケー交流大会
2023.8.11(金)～8.13(日)

本大会では、トライアルとして大会選考やアーカイブ映像（インビッドのみ）期間限定「無料」配信を予定しております。映像の無料視聴期間は8月末を予定し、DVDで映像販売も実施予定です。※ライブ配信ではありません※

AIカメラ撮影による試合映像体験ツアー

SpoLive で大会選考、アーカイブ映像を大会終了後順次配信予定

QRコードを読み込みスマホアプリをダウンロード
スマホアプリストアで「SpoLive」で検索

App Store Google Play

協賛団体
日本ホッケー協会 SpoLive NTT Sportict

計画4: 会員登録データベースの構築とデジタルマーケティングの実践

取り組み内容	進捗・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> 会員登録システムの細かな不具合整理や機能改善を継続的に実施した。前年に発生した登録ミスや問合せ内容を確認し、会員登録データベースの継続的なUI改善を行った 日本代表の国際強化マッチに向けて、SNSの発信や特設サイトの構築など、昨年度よりレベルアップしたデジタルコンテンツの提供を行うことができた 	<ul style="list-style-type: none"> システム改善により、登録間違いや問合せを減らすことができ、コールセンター運用を80%以上減らすことができた 	<ul style="list-style-type: none"> システムの課題として登録と支払いが紐づいておらず、支払い間違いが発生する可能性が引き続きある 当初見込んでいたイベント登録や、ファン登録についても、想定していた使い勝手になるためにシステム改善が継続的に行う必要がある。多くの競技団体にて共通的に利用できることからコスト削減が効いているというメリットはありつつも、システム改善にむけた柔軟性に大きな課題があり、抜本的な見直しも含めて検討中

計画5: 次世代リーダーズ会議の実施による次世代の人材育成

取り組み内容	進捗・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> 前年度に実施した次世代リーダーズ会議第一期生を中心に、本年度創立100周年を迎えたJHAの発展について、地域別や現場の現状を踏まえた意見交換とアクションの検討（オンラインにて実施） （※年度内に対面の会議を一度実施し、ホッケータウンを活用したホッケーの普及について検討予定） 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度、第一期生から出た「ホッケータウン」を各地に作り、そこを中心にホッケーの普及を行う構想を具現化。本年度はホッケータウン認定を行い、来年度以降ホッケータウンを中心に日本のホッケーの盛り上げを行う体制と関係性が構築できた 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな課題はないが、各地域から様々な立場の方が参加している都合上、一堂に話し合うタイミングをオンラインでもオフラインでも設けることが難しい



本事業の成果目標・KPIの達成状況

成果目標・KPI 1 継続的に適切な人材を登用することで、確実かつ着実にプロジェクトの進行を行う (KPI: 実績)

成果目標・KPI 2 月次での経理締め。計画と実績対比実現 (KPI: 実績)

成果目標・KPI 3 ホッケーファミリーの拡大及びパートナー企業の獲得

(KPI:新規獲得パートナー数、ホッケーファミリー間での満足度増加)

令和4年度：1.23億円、令和5年度：1.21億円（2%減少）

令和6年度の実施予定

【令和6年度の取組内容】

- 当協会全体の組織課題としては「**競技の裾野の拡大**」「**代表チームの強化**」「**ガバナンスの更なる向上**」が挙げられる
- 具体的には、**①登録競技者数の増加**、**②パートナーシップの強化**、**③経営人材やノウハウ不足への対応**などがポイントとなる。安定的かつ効率的な組織運営の基盤作りと、テクノロジーやシステムを活用したホッケー競技の魅力提供や普及活動、そしてホッケー界を担う人材育成等多角的な面から広義の強靱な経営基盤構築を図るため、引き続き組織基盤強化支援事業により組んでいく

【令和6年度の改善策】

- 仕訳作業については引き続き継続していく一方、最近事業の増大化に伴い、**支払いに纏わる周辺作業（証憑や数字の正確性）量が膨大化**している。担当者を増やすことは難しいため業務委託での対応を考える。また、**ジョブカンによる稟議書のシステム化（ワークフロー機能の活用）**については、令和6年度の重点課題として取り組み、ガバナンス向上に資する仕組みの構築を進めたい
- 会員登録データベースの構築**については、競技者やチーム登録と競技役員の資格管理のシステム化は進行しているものの、システム対応できない範囲のマニュアル作業が引き続き多く残っており、手間暇の面ではまだ大きく改善の余地がある。他のシステムの導入も含めて抜本的な対策を検討する
- 既存の業務のマニュアル化の更なる促進を図ると同時に、基幹業務を完了した後は実務での検証を行ない改善を加えていく。特に**助成金関連事業については、対象事業が増加する見込み**であり財務基盤の強化につながる一方で、**報告業務・会計処理業務が飛躍的に増大**することが予想されている